

「本格的IoT時代をにらんだ電波分野の研究者ネットワーク」 《交流と意見交換の場を設け、技術情報や事例の提供で研究者をサポート》

四国総合通信局(局長:吉武 久(よしたけ ひさし))は、管内の3大学及び5高専から電波分野の研究に取り組む15名の研究者が参加する「本格的IoT時代をにらんだ電波分野の研究者ネットワーク」(以下「ネットワーク」という。)を立ち上げ、平成30年6月29日(金)に松山市で第1回目の意見交換会を開催しました。

機器やセンサ同士がインターネットを介し互いに繋がり、データのやり取りや状態把握、制御を行うIoT(Internet of Things/モノのインターネット)において、電波分野の研究は、ますます重要性を増しています。

四国では電波の利活用による地域の課題解決に取り組む研究が活発ですが、当該分野の研究者が交流する場はありませんでした。そこで当局は、本格的IoT時代に向け、研究者の交流及び意見交換の場を設けると共に技術情報や利活用・実証実験の事例紹介も併せて行うことで、研究者をサポートすることとしました。

第1回目となる今回は、なるべく消費電力を抑えて遠距離通信を実現するIoT向けの無線通信技術であるLPWA(Low Power Wide Area)をテーマに開催し、ネットワーク参加者15名のうち10名の研究者が出席しました。

【電波分野の技術情報紹介】

国立研究開発法人情報通信研究機構(NICT)は、地域の大学、高専、企業、研究機関が利用できるNIC Tが提供する研究環境について紹介しました。LPWAに関しては、小型発信機(子機)と計測用受信機(親機)で、相互にビーコン情報(時刻、位置、受信信号強度)をやり取りし、自動でLPWAのカバーエリアをマップ化することができる機器の貸し出しについて説明し、実物を展示・紹介しました。

【電波有効利用促進に関する施策説明】

総務本省は、電波有効利用促進型の戦略的情報通信研究開発推進事業(SCOPE)(※)と高専ワイヤレスIoT技術実証コンテストの実施について説明しました。

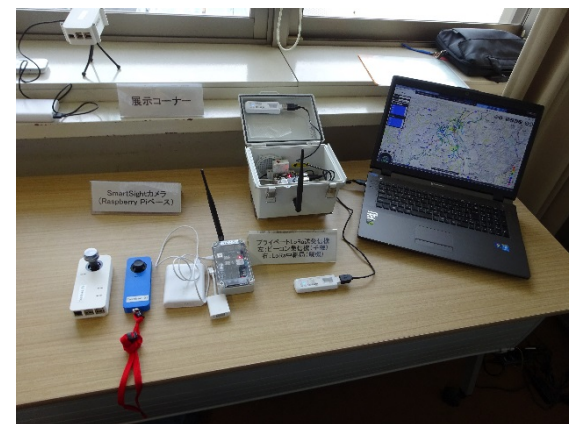
【利活用・実証実験の事例紹介】

徳島県のプロパンガス会社のシステム構築を担っているスタンシステム株式会社は、同社が行ったLPWAを活用した各家庭のガス使用量の自動検針やガス漏れ検知等の実証実験と今後のビジネス展望について説明しました。

出席した研究者からは、LPWAゲートウェイを過不足なく設置し、意図したエリアをカバーするための設置場所選定や品質設計に関し様々な質問や意見が出されました。同社が構想するビジネスモデルについても将来的な課題やコスト面での懸念など熱心な意見交換が行われました。



意見交換会の様子



展示コーナーの様子

※ 戦略的情報通信研究開発推進事業 (SCOPE : Strategic Information and Communications R&D Promotion Programme) は、情報通信技術 (ICT) 分野において新規性に富む研究開発課題を大学・独立行政法人・企業・地方公共団体の研究機関などから広く公募し、選考評価の上、研究を委託する総務省の研究開発資金です。電波有効利用促進型研究開発は、電波の有効利用をいっそう促進するため、新たなニーズに対応した無線技術に関する先進的かつ独創的な研究開発を推進するプログラムです。

【お問い合わせ先】 無線通信部 企画調整課 089-936-5071